

施設名	横浜港大さん橋国際客船ターミナル								
所在地	神奈川県横浜市中区								
管理者等	【指定管理者】 横浜港振興協会・神奈川新聞社・ハリマビステム共同事業体								
施設種類・分野	港			旅客船ターミナル					
施設概要 (明治期との関連含む)	<p>安政6年(1859年)に開港した横浜港に、近代港湾における本格的な港湾施設として、明治27年(1894年)に建設された「鉄棧橋」を前身とし、横浜港で最も歴史のあるふ頭。昭和39年(1964)の東京オリンピック開催を契機に、外航客船に対応する客船ターミナルの新設をはじめとした大改造を行い、本格的な客船ふ頭として横浜港に入港する玄関となっている。</p> <p>建設後、構造的な老朽化が進んだことや本格的なクルーズ時代に向けての全面的な施設の改修を行うため再整備工事を行い、平成14年(2002)日韓両国で開催された2002FIFAワールドカップサッカー大会に合わせ、現在の新しい「横浜港大さん橋国際客船ターミナル」をオープン。 (文献1・2より引用)</p>								
	   <p>提供: 関東地方整備局港湾空港部</p>								
築造時期	明治中期			時期詳細	1894年(明治27年)				
関連人物	H・Sパーマー(内務省土木局顧問土木技術師) 三田 善太郎(神奈川県技師)								
関連企業	-								
トピックス (特徴的エピソード)	<p>○第一次横浜築港工事の主要部を形成する。当初の「鉄棧橋」の棧橋主体部の規模は、長さ450m、幅19mでグラスゴー・バローフィールド社製のスクリューパーイルを使用。H・Sパーマーの設計に基づき、三田善太郎が棧橋主管として工事にあたった。</p> <p>○平成14年(2002)に「くじらのせなか」と愛称される鋼板造の斬新な国際客船ターミナルが完成。</p> <p>○3万トン級の客船は4隻、3万トン超級の客船は2隻の同時着岸が可能</p> <p>○平成29年2月16日に大さん橋国際客船ターミナルを代表施設とする「みなとオアシス横浜港」が登録された。 (文献1より引用)</p>								
歴史的な遺産等の指定の有無等	-	選奨土木遺産(土木学会)	-	文化財(文化庁)	-	近代化産業遺産(経産省)	-	世界遺産(ユネスコ)	-
その他 (関連資料、文献)	<p>文献1: 都市の記憶 横浜の土木遺産(横浜市+「明治の土木展」横浜市実行委員会)</p> <p>文献2: 港のあゆみ(運輸省第二港湾建設局 京浜港湾工事事務所)</p>								
管理者等のHP (URL等)	横浜港大さん橋国際客船ターミナル <a href="https://osanbashi.jp/">https://osanbashi.jp/</a>								